

新たな観光の扉

「いよいよオープン」

6月28日、アウトドア拠点施設「NIKAHO OUTDOOR BASE（ニカホアウトドアベース）」がオープンしました。当初のオープン予定は3月末でしたが、物価高騰や資材不足などのために3カ月ほど遅れての完成となりました。なんとか夏山シーズンに間に合い、ホッとしているところです。

この施設にはビジターセンターとアウトドア用品販売の大きく2つの機能があります。アウトドア用品販売については、テナントとして東北最大級の売り場面積を持つモンベルストアが「モンベルにカホ店」として入居します。オープン初日より市内外から多くのお客さんに訪れていただいています。

いろいろな所で多くの方々から新しいアウトドア拠点施設の目的について聞かれます。これに対しては簡単に、「ビジターセンターはアウトドア観光を展開していくための拠点となる施設です。そして、この目的を実現するためにモンベルの豊富な知見とノウハウを活用しているというものです」といった説明をしています。

「ビジターセンター」の役割

ビジターセンターが取組む具体的な内容のうち、わかりやすいものをいくつか紹介します。

まずはセミナーの開催です。アウトドア初心者から上級者のそれぞれに合わせた約1時間のセミナーが年間スケジュール

ルにて実施されていくことになります。たとえば他地域で実施されている登山セミナーでは、「地図の読み方」や「コンパスの使い方」などから「雪山登山のはじめ方」や「親子登山のはじめ方」など、さらには「山でのトラブル対処法」や「テント泊登山の魅力」についてのセミナーが、半年間に10〜20回くらいのペースで開催されています。また、「スポーツバイクのはじめ方」「カヌー・カヤックのはじめ方」などといった新たなアウトドアを楽しむためのセミナーも開催されています。

特徴あるほかの取組みとしては、新たなアウトドアツアーの開催があげられます。モンベルには約115万人の有料会員がおり、彼らに向けてさまざまなイベントが提供されています。たとえば「バスで行く東北の名峰 日本百名山 鳥海山登山2 days」などは即完売のことでした。にかほ市でも今後このようなアウトドアツアーが商品として開発されていくことになります。

そのほかにもビジターセンターではE-bikeのレンタル、カヤック体験、ピナクル（高さ8mの円筒状の人工岩山）でのクライミング体験などができます。

旅の目的地

多くの市民のみなさんが「にかほ市は鳥海山と日本海があって自然豊かなとてもよいところだ」と言います。市外の方々も同様に「にかほ市は地域資源が豊かな素晴らしいところですね」とよく言っ

てくれます。なかには「にかほ市はほかに比べて明るいですね」と言ってくれる方々もいます。ちなみに、このときの明るいとは光がまぶしいという意味です。これに対して、あくまでも私見ですがと断りを入れながら、「にかほ市が明るいのは日本海と鳥海山の両方に太陽光が反射しているからだと思います。光の量の多さを感じさせてくれるのも海と山に囲まれた豊かな自然のおかげです」と私は答えています。

にかほ市には、道の駅象潟ねむの丘だけを見ても年間100万人を超える観光客が訪れています。おくのほそ道「象潟」、フェライト子ども科学館や白瀬南極探検隊記念館などのミュージアム、仁賀保高原、鉾立、冬師や獅子ヶ鼻といった湿原、元滝伏流水や奈曽の白滝、日本海など、市内各所に訪れる人々を合わせれば観光客はもっと大きな数になります。

今回のアウトドア拠点施設の整備は、すでに「旅の目的地」として確立しているにかほ市に、新たな観光の扉を開け、交流人口、関係人口の幅をさらに拡大させていくとするものです。



にかほ市長
市川雄次

市政運営から日常の出来事まであらゆるテーマをコラムにしています。過去のコラムは市HPからご覧になれます。

